

提携や新規上場進める

将来見据え研究所設立

東京工業品取引所が攻勢を強めている。新清算制度の導入を決めたのに続き、
軽油の上場、ニューヨークマーカンタイル取引所(NYME)との提携、市場
構造研究所の設立などを打ち出し、実行に移し始めた。その概要を紹介しよう。

9月にも軽油を上場

東工取は9月8日に軽油を上場する計画である。経済産業省に軽油上場の認可を申請、それが4月9日の官報に告示された。異論が出来なければ、4カ月以内に承認される見通しだ。

軽油の上場は長い間、東工取の懸案になつていた。東軽油は地方税がかかるが、脱税を防ぐための措置が求



そこで、東工取は受渡しは未課税とし、この問題をクリアーした。具体的には、「渡し方は元売り、受け方は元売りと特約店」に制限するとともに、「会員以外の特約店の受けは3枚以内とする」ことにしたもので、これにより関係官庁の了解を得た。

軽油の年間需要量は平成13年度で4,096万キロリットル。店売り品目としては灯油の2,850万キロトルをしのぎ、ガソリンの5,882万キロトルに次ぐ。そのうえ、流通業界からも上場への希望が多かつただけに、かなりの商いが期待される。

NYMEXと提携

東工取は4月16日、NYMEXとの提携を発表した。
提携の骨子は

同研究所は2本立てで研究活動を行う。一つは経済



月浜松商業卒。同55年3月
身。同54年3
れ、静岡県出

今回のトーナメント交代は組織の若返りを図り、社内を活性化するとともに、役割分担・責任を明確にするのがねらい。

高利男社長が代表権を持つ会長に就き、深田享専務が社長に昇格したことを見た。また、進士敏二専務が代表取締役副会長に就任し、3人代表制となつた。

東海交易(現クロー・ハリ)に入社。平成2年1月取締役営業部長、同5年11月取締役営業本部長、同6年7月常務取締役営業本部長、同11年7月専務取締役、同14年7月代表取締役副社長。

中部商取は木村氏

大阪商取は天野氏

でに研究報告書をまとめる。
もう一つは東工取の将来
をにらんで、独自の視点か

でに研究報告書をまとめる。
もう一つは東工取の将来
をにらんで、独自の視点か

ら排出権、電力、天候デリバティブなどの研究をするもの。

<p>天野 正義（あまの まさよし）昭和47年3月東大法卒。同年4月通産省入省。同60年3月工業技術院国際研究協力課長、平成5年8月環境立地局保安課長、平成8年5月連合王国（英國）日本国大使館公使、同11年7月退官、現職に就任。53歳。</p>

<p>52年太陽商品（現太陽ゼネラル）入社。 パシフィック フューチャーズ（現日本アクリス）、コーウフューチャーズを経て、平成11年西友商事入社。同年6月専務。48歳。神戸市出身。</p>
<p>アスカファーユ会長に坂井氏 前フジフューチャーズ社長 アスカファーユチヤーズ社長 （本社名古屋市、大石俊司社長は4月14日、同月1日付で前フジフューチャーズ社長の坂井康明氏を代表取締役会長に迎え入れたことを明らかにした。アスカファーユチヤーズはフジフューチャーズの関連会社で、坂井氏はフジフューチャーズの 相談役を兼務する。</p>